

小学英語の必修化、
一体何が大変なの？

学習塾と英会話教室、
通うならどっちがいいの？

疑問をすっきり**解決**！

小学英語

GUIDE BOOK



東京個別指導学院
関西個別指導学院

はじめに

2020年度から新しい学習指導要領が施行され、
小学3・4年生は外国語（英語）教育が**必修化**、
5・6年生は**教科化**されました。

英語にまつわる習い事をするお子さまも多く、
社会全体で**英語への関心が高まっている**ことが
うかがえます。

国際社会で活躍できる人材育成のために
強化された英語教育。

実際、どんな学習が行われていて、
どんな課題がうまれているのか、
また、家庭の中で英語とどう向き合っていくのかなど
小学生の保護者の方にお役立ていただける情報を
このガイドブックでお伝えします。

お子さまの英語教育を考える一助になれば幸いです。



もくじ

第1章

変化する小学校の英語教育	04
■なぜ小学校で英語が必修化に？	05
■小学英語教育のポイント	06
COLUMN なぜ英語の早期学習が効果的と言われているの？	08
■中学受験でも英語が取り入れられるように	09
■小学生以下の英検志願者も増加	10
■小学生で英語嫌いも増加	11
■新しい小学英語の課題	12
■英語に触れる時間を意識的に増やそう	14



COLUMN

もくじ

第2章

二極化する中学英語

15

小学校にも影響が？

■二極化の原因

16

■小中連携の強化により小学校英語も難化

23

■小学校のうちに学習したことを 身につけておこう

30

第3章

学習塾と英会話教室

31

小学生が通うならどっち？

■学習塾の特徴

32

■英会話教室の特徴

33

■通う目的を明確にしよう

34

■英語力を伸ばすカギは楽しいかどうか

35

さいごに

36

COLUMN

第1章

変化する 小学校の英語教育

2020年度から新しい学習指導要領が施行され、**小学校で学習する英語の内容が変化**しました。

英語の学習内容が変わるのはいいけれども、
「どんな勉強をしているの？」
「家でも勉強しないといけないのかしら？」
「うちの子、勉強についていけるの？」
と不安を抱える保護者の方も
いらっしゃるのではないのでしょうか。

まずは、小学校で学習する英語の学習内容や、
小学校英語必修による社会的な変化、
新しい英語教育の課題などを
お伝えします。



第1章 変化する小学校の英語教育

なぜ小学校で英語が必修化に？

昨今、急速にグローバル化が進んでいる国際社会の中で活躍するためには、国際的な視野を備えた
コミュニケーション能力が必要となります。

それを見据えて導入されたのが小学校の英語教育です。
すべての子どもたちに充実した英語教育の機会を与えることを目的の1つとし、
小学校英語が必修化・教科化されました。

また、小学校英語の必修化は、中学校からの英語学習にスムーズにつなげる狙いがあるほか、高校卒業までに「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つのスキルを総合的に育てていくことを目指しています。

Reading

Writing

Listening

Speaking



第1章 変化する小学校の英語教育

小学英語教育のポイント

Hello! How are you? I'm fine, thank you.

小学3・4年生 外国語活動

- 授業時間数は、年間**35時限**
- 「外国語と触れ合う」ことが目的
成績評価の対象にはならない



以前は、小学5年生から「外国語活動」を行っていましたが、2020年度の学習指導要領からは2学年前倒しされ、小学3年生から始まるようになりました。

また、授業時間数は年間35時限とされ、週に1回程度の頻度で外国語の学習を行います。授業は、「外国語に親しむ」ことが目的なので、「**聞く**」「**話す**」などの**コミュニケーション**を中心とした内容になっています。

第1章 変化する小学校の英語教育

小学英語教育のポイント

小学5・6年生 外国語（英語）

- 英語が外国科として**教科化**
- **成績評価の対象**になる
- **文法**事項を用いた表現
- 「読む」「書く」も加わる



5年生からは、英語が「教科」となり、成績がつくようになります。授業時間数は、**年間70時限**となり、以前の学習指導要領よりも2倍の時間数が確保されるようになりました。

また、5年生になると「聞く」「話す」に加えて「読む」「書く」も学びます。自己表現の幅を広げるために、文法事項を用いた表現も学び、小学校卒業までには600～700語程度の語彙力がつくようになることを目標としています。

COLUMN

なぜ英語の早期学習が効果的と言われているの？

◆ ◆
早期英語学習が効果的と言われる理由の一つに、
言語の臨界期説があります。

臨界期とは、人間の脳の発達段階において
学習した効果がよくあらわれる時期のこと。

この時期に英語を学ぶと、
日本語を覚えていく過程で
一緒に英語を覚えられると言われています。

臨界期には諸説ありますが、
「臨界期は9-10歳頃、その頃から英語学習が必要」
と説く人が多いのが現状です。

早期英語教育では、歌やダンスなどで
コミュニケーションを行うものが多く、

楽しく学ぶことができます。

楽しく学んだ英語はポジティブなイメージを持つため、

その先の中学・高校での学習にも
プラスの影響を与えることができるのも
メリットの1つです。



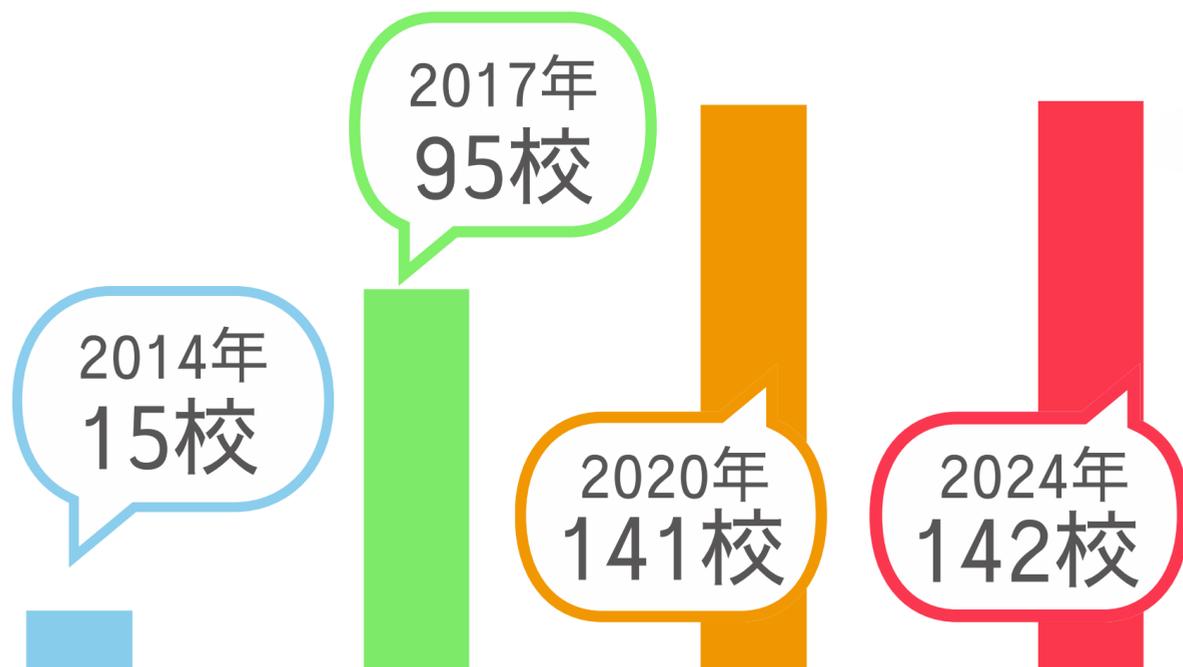
第1章 変化する小学校の英語教育

中学受験でも英語が取り入れられるように

小学英語が必修化したことにより、
中学受験にも変化がうまれています。

従来の中学受験は、「算数」「国語」「理科」「社会」で入試が行われていましたが、ここ数年、試験科目に「英語」を取り入れる学校が増えています。首都圏模試センターの調べによると首都圏の中学入試における英語入試実施校は、2014年入試が15校だったのに対し、2024年入試では142校と大幅に増加しています。

英語を取り入れているのは私立中学だけではありません。公立の中高一貫校でも取り入れられており、今後さらに英語入試を導入する学校が増える見込みです。



第1章 変化する小学校の英語教育

小学生以下の英検®志願者も増加

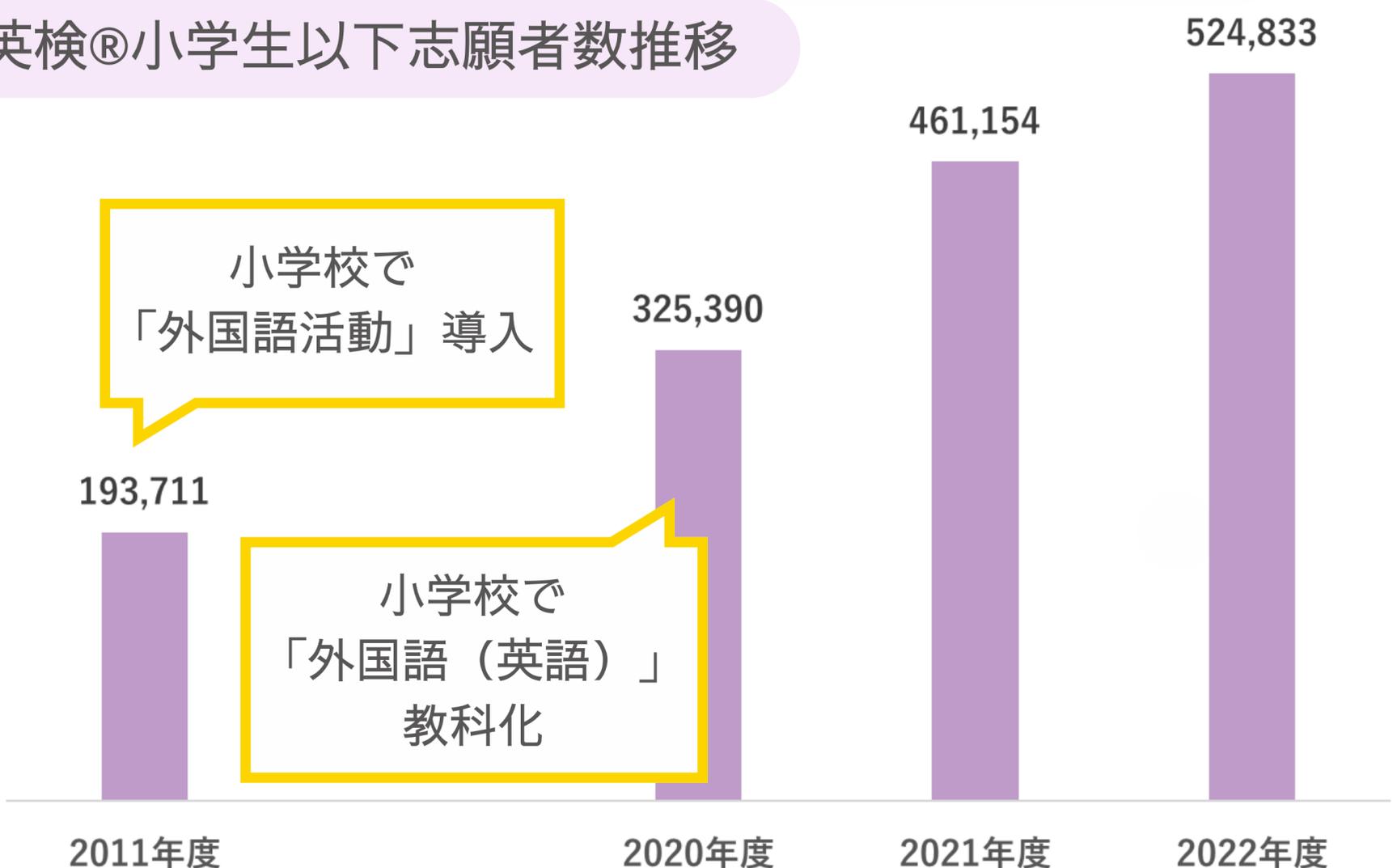
また、中学受験だけではなく、英語・資格検定の志願者にも変化がでています。

英検®を受験する小学生の数は年々増加傾向にあり、日本英語検定協会の発表によると、2022年度の小学生以下の志願者数は52万人にのぼっています。

これは、小学校で初めて「外国語活動」が導入された2011年と比べると、**2.7倍と大幅に増加**しており、英語への関心の高さがうかがえます。



英検®小学生以下志願者数推移



※日本英語検定ホームページ「英検受験の状況」をもとに東京個別指導学院が作成
<https://www.eiken.or.jp/eiken/>

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

第1章 変化する小学校の英語教育

小学生で英語嫌いも増加

文部科学省の英語教育実施状況調査を見ると、英検3級相当以上を達成している中学生、英検準2級相当以上を取得している高校生の割合は、年々増えてきており、全体の**英語力は一定数上がっている**ことがわかります。

しかし、全国学力・学習状況調査の調査結果資料を見ると

「英語の勉強は好きですか」という質問に対し、小学6年生の30.7%が「あてはまらない」

「どちらかといえばあてはまらない」と回答。2013年度の同様の質問では23.7%でしたので、**英語が好きではない生徒**の割合も増えています。

2013年

23.7%

英語が**好きではない**
生徒の割合が
増加!



2023年

30.7%

第1章 変化する小学校の英語教育

新しい小学校英語の課題点

小学校英語にはメリットもありますが、もちろん**課題**もあります。

授業時間の確保

英語の授業時間数は増えてきましたが、ほかの教科の時間数は削減されていません。そのため小学校では、1時限で複数の教科を実施する**モジュール授業**などを活用して英語を授業に取り入れるなど、**時間の確保が課題**になっています。

小学校で習得すべき英単語数は600～700語。国語の授業時間数や学習漢字の量と比較すると、約1/4の授業時間にもかかわらず、覚えるべき語彙数にはほとんど差はありません。知識を定着させるためには、**家庭学習の役割が重要**になっています。



教科		3年	4年	5年	6年	合計
国語	授業時間数	245	245	275	175	940
	学習漢字	200	202	193	191	786
英語	授業時間数	35	35	70	70	210
	学習英単語	600～700				600～700

※小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

第1章 変化する小学校の英語教育

新しい小学校英語の課題点

地域・学校間格差がある

中学校になると、教科教員が授業を実施しますが、小学校では学級担任がそのほとんどを担います。令和4年度の調査によると、小学校英語の授業は学級担任が実施しているケースが約58%、英語の専任教員が担当している学級は約21%です。

しかし、現在の小学校教員の多くは教員養成課程で英語指導を学んでおらず、人間なので英語への得手・不得手はあります。英語授業の研修や研究を行っているとはいえ、頻度や内容は地域や学校によって異なるため、どうしても**授業内容に差がうまれてしまう**現状です。



※令和4年度公立小学校における英語教育実施状況調査

第1章 変化する小学校の英語教育

英語に触れる時間を意識的に増やそう

グローバル化する世の中で活躍できる人材育成のために導入された小学校英語。早期に英語に触れることのメリットは多いですが、一方で、知識定着に必要な時間数が学校の授業だけでは足りなかったり、地域・学校間格差が生じてしまったりなど課題も残っています。その結果、小学校のうちから英語が嫌いという子が増えるように…。

英語は言語なので「楽しい!」「もっと学びたい」と思えることが上達のカギです。お子さまが苦手意識を持つ前に、**ご家庭の中で英語に触れる時間を増やしてみましよう。**

英語への取り組み一例

- 簡単な英語コミュニケーションを親子でとってみる
- お子さまが興味を持ってそうな英語の動画やテレビ、マンガやなどに触れてみる
- お子さまが好きなもの・興味があることから英単語を覚えて表現してみる
- 毎日、短時間でも英語に触れてみる



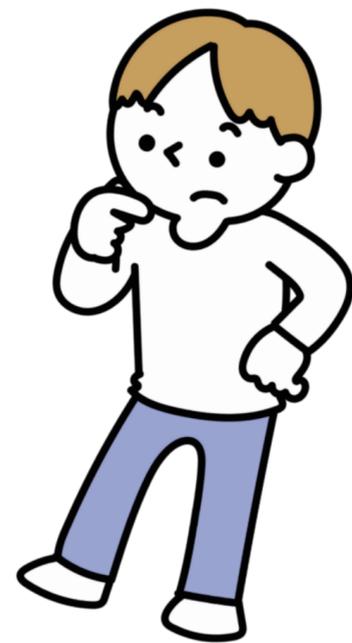
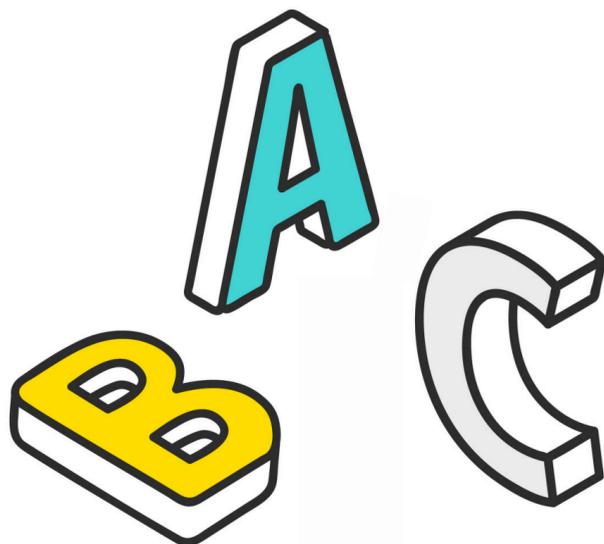
第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

文部科学省では、**目指す英語力の指標**として、
「中学校卒業段階で英検3級程度以上、
高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を
達成した中高生の割合を50%」とし、
実現に向けて取り組んできました。

実際に、令和4年度の英語教育実施状況調査を見ると
CEFRA1レベル（英検3級）相当以上を達成している
中学生は49.2%と、令和3年よりも2.2ポイント
上昇しており、目標に近づいています。

しかし、英語力向上の取り組みの中で、
中学生の学力差は広がっており、
小学校英語の必修化によって、
さらに**二極化に拍車がかかる**ことが
懸念されるようになりました。



※英語力の指標：「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月14日閣議決定）

※令和4年度「英語教育実施状況調査」

第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

中学生の学力が二極化する原因

中学生の学力が二極化する原因は主に4つあります。

原因

①

中学校の教科書が
難化している

原因

②

単語量が増えている

原因

③

教科書によって
文法がバラバラ

原因

④

小学英語の習得前提で
中1の授業が進む



中学生の学力が二極化する原因

原因① 中学校の教科書が難化している

複数の教科書を参考に、中1の最初に取り組むUnit1の単元内容を参考に例文を作成しました。

Hina: Are you from Los Angeles?

Mary: Yes, I am.

Hina: So, are you a baseball fan?

Mary: No, I'm not.

I'm a table tennis fan.

Hina: Table tennis? Do you play it, too?

Mary: Yes, I do.

Hina: Good! Me, too.

Well, can you see the gym?

Mary: Yes, I can.

Hina: We can play table tennis there.

Mary: Great.

例文には、「be動詞」「一般動詞」

「助動詞can」が含まれています。

複数の動詞が使われており、中1の最初に

取り組む内容としては、難しく感じられます。

第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

中学生の学力が二極化する原因

原因① 中学校の教科書が**難化**している

一昔前は、文法を中心に学習する単元構成でしたが、新しい学習指導要領では「**実際のコミュニケーションで使える英語**」に重きが置かれています。文法もある程度は考慮されていますが、それ以上に実際の場面に合わせた表現が学習の軸に。生活の1場面を想定して、その場で使用する英語表現や文法を学習する内容に変化しているのです。

そのため、複数の文法が一気にでてきたり、表現する単語のバリエーションが増えたりなど、教科書が全体的に難しくなっています。

なにがなんだかわからない...



第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

中学生の学力が二極化する原因

原因① 中学校の教科書が**難化**している

複数の文法表現が一気にでてくると、
混乱するお子さまは多くなります。

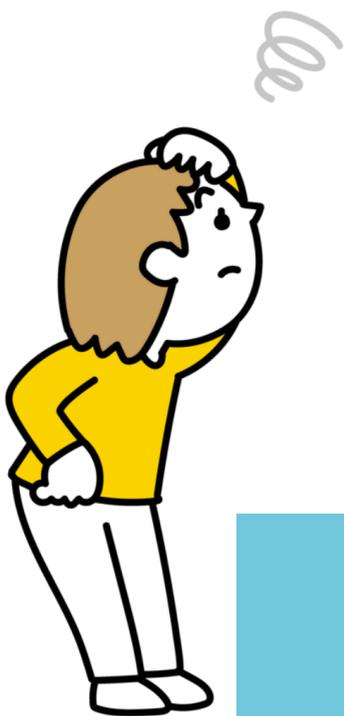
例えば、英語で最初につまずきやすいポイント1つに
「**be動詞**」と「**一般動詞**」の**区別**があります。
これを習得するためにはいくつかのハードルが...

「be動詞」に相当する動詞は日本語にはないので
想像するのが大変。

教科書や参考書では
文法用語を用いて説明されているため、
イメージがしにくくつまずいてしまう人もいます。

小学校で学習するのは、
文の種類（主語・述語・修飾語など）まで。

小学校では「品詞（名詞・動詞・形容詞など）」を
学習していない。（中学校1年生の国文法で学習予定）



そのため、理解が曖昧なまま進むと、テストで
「I **am play** soccer.」と書いて間違えることも。

教科書が難しくなっているからこそ、
お子さまが混乱するまえに、しっかりと対策を始めて
おきましょう。

第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

中学生の学力が二極化する原因

原因② 単語量が増えている

「実際のコミュニケーションで使える英語」に重きが置かれているため、表現するための単語量も増えています。

例えば、「I like soccer.」と言っても、中学生全員がサッカー好きなのわけではありません。

自己表現をしようとする、単語量は自然と増えていきます。

今回の学習指導要領では、小学校で学習する英単語（600～700語）に加え、中学校1600～1800語と、**中学卒業までに約2500語**の単語を覚えることになりました。

親の世代で学習した単語量は1000語程度です。

当時を思い出していただくと、今の子どもたちの負担が大きくなっていることはイメージできるかと思えます。

学習する単語数			
改訂年度	小学校	中学校	小中合計
平成元年改訂	0	1000語	1000語
平成10-11年改訂	0	900語	900語
平成20-21年改訂	0	1200語	1200語
平成29年改訂	600～700語	1600～1800語	2200～2500語

中学生の学力が二極化する原因

原因③ 教科書によって**文法**がバラバラ

今の英語の教科書は、実際の場面に合わせた表現が学習の軸になっています。

しかし、日常のどの場面をどう表現するかは教科書によって異なるので、学習する文法の順番も**教科書によって異なります**。

そのため、「参考書や学習書に出てくる文法の順番と学校の進度が合わない」ということも…。

また、今まで高校で学習していた「仮定法」や「原型不定詞」など、**高校内容の一部が中学生の学習内容として加わり**、高度な文法も学ぶことになりました。

学習すべき単語も文法も増えているため、知識定着や英語力向上のためには家庭での学習をどのようにするのがとても重要になります。

■ 仮定法の一例

If I were a hero,
I could fly.

もし僕がヒーローだったら、
飛べるのに！



中学生の学力が二極化する原因

原因④ 小学英語の習得前提で中1が進む

小学校の英語では、
本格的に書く指導は行われませんが、
中学1年に上がると
「書く」ことが求められるようになります。

そのため、小学校では「He play soccer.」でも
伝わっているとされていたものが、
中学校のテストでは「He plays soccer.」と
書けなければテストで得点できません。

また、小学校で600～700語を学習した前提で
教科書が作られているため、
忘れていたようであれば、
再度学習しつつ中学校の単語も
覚えていかなければなりません。

小学校では「書く」ことに重きは置かれていませんが
中学校での学習を踏まえると、
小学校で学習した単語は小学校のうちに
ある程度覚えておくほうがよいでしょう。



小中連携の強化により小学英語も難化

英語教育の改革により、
英語力の二極化が懸念される中学生。
教科書が難しくなり、
学習する語彙が増加され、**旧課程の約2倍**の量に。

また、学習する文法も一部
高校から降りてきていますが、
学校の**授業時間数は週4時限と旧課程のまま**です。

**授業時間は変わらないのに、
勉強すべき量が増えているため、
中学生への負担はかなりなものです。**

このような流れを受け、
小中連携を強めようという動きがあります。
2024年度の教科書改訂では、
小学英語が大きく5つ変わりました。



第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

小中連携の強化により小学英語も難化

変化①

学習**単語数**が増加

変化②

高度な**英語表現**が増える

変化③

「**書く**」ことが増えた



変化④

思考力・表現力・判断力も
求められるように

変化⑤

デジタル化教科書も
使えるように



小中連携の強化により小学英語も難化

変化① 学習単語数が増加

学習指導要領では、小学校で習得する単語は600～700語とされていますが、新しい教科書の多くは700語以上扱われており、中には800語を越えるものもあります。増加すると聞くと、圧迫感を覚える方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、「What food do you like?」と聞かれたら、答えは1人ひとり違うのが当たり前です。

「**実際のコミュニケーションで使える英語**」を学ぼうと思ったら、表現するために必要な単語数はおのずと増えていきます。

小学校の間にすべての単語が「読める」「書ける」ことまでは求められていませんが、中学校での学習を踏まえると、ある程度覚えておくことは大切です。



小中連携の強化により小学英語も難化

変化② 高度な英語表現が増える

小学英語では、直接的に文法事項として学習することはありませんが、中学校で学習する文法事項が表現として増加されています。

過去形の表現 一例

I **played** badminton in the gym.
私は体育館でバドミントンをした。

不定詞を用いた表現 一例

I went to the gym **to play** badminton.
私はバドミントンをする**ために**体育館に行った。

高度な英語表現が増えたことにより、自己表現をする幅も広がったので、「いろいろな表現をしたい！」

「もっと学びたい！」というお子さまは**どんどん伸びていく**ことが予想されます。

一方で、苦手意識を感じてしまうと**苦手に拍車がかかる**ことも…。苦手意識を持つ前に、ご家庭でも「英語が楽しい」「面白い」と感じられるよう、英語に触れる機会を増やしてみましよう。



第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

小中連携の強化により小学英語も難化

変化③ 「書く」ことが増えた

中学校へのスムーズな接続を意識して、新しい教科書では「書くこと」を大切にした内容に変化しています。

！ ヒントを手掛かりにして
「夢宣言カード」を完成させよう

ヒント

I like soccer.

I want to join the soccer club.

I want to enjoy soccer.

My dream is to become a soccer player.



＼チャレンジしてみよう！／

キミの夢宣言カード！



?????

英語が教科となる小学校5年生から書く練習をし、6年生になると文章を書かせる問題にもチャレンジするように。小学校のうちから書く練習をすることで、中学の学習で戸惑わないよう配慮されています。

第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

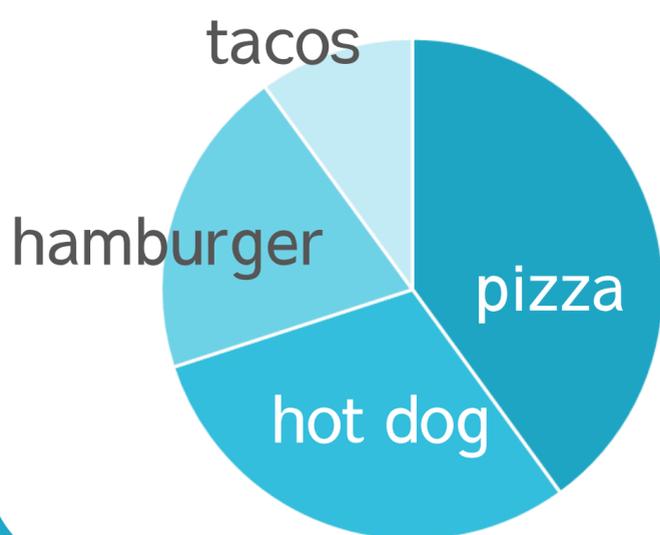
小中連携の強化により小学英語も難化

変化④ **思考力・表現力・判断力**も求められるように

教育制度改革で重きを置かれている「思考力」「表現力」「判断力」ですが、新しい英語の教科書にもその力が求められるようになりました。

具体的には、大学入学共通テストや高校入試などで出題される「グラフや資料を読み取る問題」なども盛り込まれるようになっていきます。

！ イギリスの子どもたちに行ったアンケート結果です。
グラフを見ながら説明を聞いて、質問に答えましょう。



I want to eat



英語でのコミュニケーションを楽しむ要素が強かった小学校英語から、教科としての英語、実際の活用場面を意識した英語という側面も考慮された内容に変化しています。

小中連携の強化により小学英語も難化

変化⑤ **デジタル化教科書**も使えるように

文部科学省は、2024年度から
小学校5年生～中学校3年生の「英語」に
デジタル教科書を取り入れることにしました。

英語デジタル教材の最大の特長は
「**音声や動画が再生できる**」ことです。

うれしいポイント

- 再生スピードを調整ができる
- 動画で学習できることにより、
「耳」と「目」を使ってより効果的に学べる
- 何度でも上書き保存ができるため、
反復学習ができるし破損や汚れもない
- 教科書を拡大できるので、
視力が低くても見やすい



デジタル教材の使用有無は、
地域や学校によって異なりますし、
当面は紙教材と併用しての
授業を進めていく予定ですが、
学習の仕方も時代とともに変化しています。

第2章

二極化する中学英語 小学校にも影響が？

小学校のうちに学習したことを 身につけておこう

英語教育改革の成果として、
中学生全体としては**英語力が上がっています**。
しかし、教科書が難しくなり、
覚えるべき語彙量も増えました。
中学生への負担が大きくなっている現状を鑑みて
小中連携を強めていますが、
その結果、小学英語も難しくなっています。

英語が好きなお子さまにとっては
力を伸ばせる環境ですが、
早期に苦手意識をもってしまったお子さまは、
英語嫌いが加速する可能性も否めません。



一度つまずいてしまうとリカバリーすることが
難しい状況になっていますので、
小学校で学習した内容は
小学校で身につけておくとともに、
英語嫌いにならないよう、
ご家庭でも英語学習に取り組んでみてください。



学習塾と英会話教室 小学生が通うならどっち？

小学校でも外国語が教科になり、
小学生以下の英検受験者も年々増回しています。

英語に関心が高まっている今、
お子さまの英語教育について
検討されている保護者の方も
多いのではないのでしょうか。

中には、

「**学習塾と英会話教室、**
これからのことを考えたら
どっちに通わせたらいいの？」
と迷われている方も
いらっしゃるかもしれません。

ここからは、
それぞれの違いや
特徴についてお伝えします。



学習塾の特長

学習塾での「英語」は、
「**教科として学ぶ**」ことが目的です。



<h3>学習内容</h3>	<p>学校の授業や入試に出る内容を学習し文法や語彙力、読解力をつける。 授業は日本語で実施。</p>
<h3>使用教材</h3>	<p>日本語で書かれた教材</p>
<h3>メリット</h3>	<p>学校の成績アップ・志望校合格に向けて効率よく学べる。 講師は日本語で話すので、「英語がわからなくて授業内容が理解できない」という心配がない。</p>
<h3>学習塾が向いている方</h3>	<p>成績を上げるためや受験のために英語を学びたい方</p>

英会話教室の特長

英会話教室の目的は、

「英語を聞いて話せるようになること」であり、コミュニケーションの一部という側面が大きくなっています。

学習内容

「会話すること」が目的なので、英語を口に出す（話す・聞く）ことがメイン。
授業は英語で実施。

使用教材

英語でコミュニケーションをとるためのツールとして活用。

メリット

自然な英語の発音や、実際に日常生活で使う英語表現を習得することができる。
異文化への抵抗が少なくなり国際的な感覚を育てられる。

学習塾が向いている方

英語でコミュニケーションをとれる力を身につけたい方



通う目的を明確にしよう

英語にまつわる習い事をさせようと思ったら、
まずは「何のために通うのか」
「どんな力を身につけてほしいのか」を
明確にしましょう。

「中学生になって困らない力を身につけてほしい」
「小学校高学年や中学生でよい成績を取りたい」
とお考えであれば、
学習塾の方が向いているでしょう。

「実践的な英語コミュニケーション力を
身につけてほしい」
「耳や脳を英語に慣れさせておきたい」
とお考えであれば、
英会話教室の方が向いているでしょう。

もちろん、それぞれの特徴を踏まえたうえで
両方通われるのも一つの方法です。
ニーズに合わせ必要なものを選択してください。



英語力を伸ばすカギは 楽しいかどうか



英語にまつわる習い事をさせ上で大切なことがもう1つあります。それは「お子さまが“楽しい”と感じられる」ことです。

どうしても「得られる効果」に目が行ってしまいがちですが、そもそも「楽しい」と感じられなければ、通うことが苦痛になり、**継続することが難しくなる可能性**があります。また、嫌な気持ちで学習を続けると、**英語そのものに苦手意識**を持ってしまうこともあり得ます。

学習塾や英会話教室の中には、カウンセリングや教室見学、体験授業などを無料で行っているところも多くあります。

それらをうまく活用し、お子さまが「楽しい」と思えるものを選ぶことをオススメします。



さいごに

小学校英語が必修化し、
英語への関心は高まっているかと思います。
「早く準備をしたほうがいい？」とお考えの方も
いらっしゃるかもしれませんが、
小学校英語の授業に備えて、
特別な対策や準備は必要ありません。

しかし、中学生生活やその先の進路を踏まえると、
**基本的な単語はある程度読めて
書けるようにしておくこと**をオススメします。

また、小学校の時期は耳を鍛えたり、
多言語への興味を深めたりする絶好のチャンスです。
お子さまが、「**英語って楽しい**」と
感じられるような工夫を取り入れ、
ご家庭でも英語に触れる時間を
作ってみてください。

お子さまの英語学習が、
楽しく実りあるものになることを願っています。



疑問をすっきり解決！

小学英語 GUIDE BOOK

東京個別指導学院・関西個別指導学院
公式サイト

<https://www.kobetsu.co.jp/>

© 2024 (株) 東京個別指導学院